

# さくらんぼ

自ら動き、感じ、楽しむ

～笑顔あふれる幼稚園～



NO. 2 令和4年6月21日発行  
山口大学教育学部附属幼稚園  
URL: <http://www.ymg-kg@yamaguchi-u.ac.jp>

今月は、保育参観・お父さん参観、ピーマンJr.の会など、保護者の方々には、多くの参加ありがとうございました。保育参観やお父さん参観では、お子さんの新しい発見が多かったことと思います。また、ピーマンJr.の会では園庭の清掃をしていただき、園内がとてもきれいになりました。ご協力ありがとうございました。

今回は、保育参観やその後の様子をご紹介します。



## 初めての保育参観（花組）

初めての保育参観で、「あれ？お母さんが幼稚園にいるぞ。」と不思議そうに見ている子ども、お母さんが来ていることを忘れているくらい遊びに夢中になっている子ども、お母さんに「こっちに来て。」と砂でつくった料理を見てもらいたい子どもなど様々な姿がありました。保護者の方も、幼稚園で実際に遊ぶ姿を初めて見たという方も多く、「私の所に来ることもなく遊びを楽しんでいて、幼稚園に慣れたのだと改めて実感しました。」「子どもに「今日は、誰と遊んだの？」と聞くと、「一人で遊んだ。」と返ってくることに心配していました。しかし、砂場で山を作ってみたり、水鉄砲を試してみたり、それぞれがしたい遊びを楽しんで、その周りには友達がいれば、かかわりが増えて行くのだと感じました。」と安心された感想などもいただきました。実際の姿を見てもらうことで、子どもたちの遊びから感じられたことが多くあったようでした。

お父さん参観に参加されたお父さん方も、子どもたちの様々な姿に出会い、いろいろなことを感じたことでしょう。「子どもが家で話すことが“このことか！”とつながりました。」と嬉しそうに話して下さる方や、「友達とまだ遊んでないですね。」「友達に“ごめんね”がなかなか言えなかったですね。」など話される方もいらっしゃいました。しかし、友達とのかかわりはまだまだこれからです。今の時期は、自分でしたい遊びをみつけて遊び、楽しさや満足感を感じる事が大切です。

最近では、泡遊びで感触を楽しんだり、カップに泡を入れてアイスに見立てて遊んだり、虫に興味をもちダンゴムシやツマグロヒョウモンを探

したり、好きな曲に合わせて踊ったり、空き箱をガムテープでつなげて連結列車を作ったりと、自分の好きなことや興味をもったことを繰り返し遊んでいます。そして、好きな遊びをする中で、友達を感じて一緒にいることが楽しくなってきた子ども、いつもと違う遊びもやってみようとして一歩踏み出した子ども等、日々子どもたちは成長しています。今回見た姿から成長を一緒に見守り、支え、喜び合えると嬉しいです。(尾川)

## トカゲさんカナヘビさん、ありがとう！（風組）

生き物好きが多い風組の子どもたち。春にダンゴムシやアオムシに出会ってから、ドウガネブイブイ、コガネムシ、カミキリムシにモンシロチョウ、トカゲやカナヘビ、テントウムシにカタツムリと、園内で様々な生き物を捕まえてきては飼育ケースに入れて観察してきました。今は、ツマグロヒョウモンがチョウになるまでの様子と、オタマジャクシがカエルになるまでの一部始終を観察中です。風組の生活に、こんなにも生き物が欠かせない存在になったのは、トカゲやカナヘビとの出会いがあったからです。



風組の生き物好きが知れ渡ったころ、風組の靴箱の前にカナヘビが姿を現しました。素早い動きのカナヘビを捕まえることができなくて、残念がる子どもたち。翌日の登園前、副園長先生が大きなカナヘビを捕まえて風組さんに届けてくださいました。登園してきた子どもたちは、カナヘビがいることに大喜びで、早速カナヘビ探しが始まりました。次に捕まえたのは、体がキラキラしているトカゲです。二匹の違いを見るために、図鑑を開くと、そこには飼育環境の絵が載っていました。保育者が「こういうおうちが好きですよ、って描いてあるんだよ。」と説明すると、その絵を見た子どもたちが「木が好きなんだ。」「(飼育ケースに)土を入れる?」と言い、園庭に落ちていた枝や畑の土を取ってきて、飼育ケースがあつという間に素敵なおうちになりました。その後、自分たちでもカナヘビを捕まえられるようになりカナヘビが6匹、トカゲが1匹の7匹の大家族になりました。「この子は、目が赤い。」「(体の横の)この線が茶色い子が好き。」「キラキラちゃん。」などとそれぞれの体の特徴を把握して、7匹いても一匹ずつの区別ができているようになって子どもたちもいます。

毎日、霧吹きで水分補給をしながら、風組なりに可愛がってきたトカゲとカナヘビですが、体力の限界が見え始めます。保育者は、子どもたちと一緒に今後トカゲたちをどうするか相談をすることにしました。この頃にはトカゲたちとの時間が生活の一部になっていたため、まだ一緒にいたい気持ちと、元気になってほしい気持ちとの間を行ったり来たりしましたが「なんか元気ないね。おなかすいてるよね。」と言った子どもたちの一言で逃がすことに決めました。他にも、ここには書ききれないほどたくさんのエピソードと経験が風組さんの中に残っています。

トカゲたちと過ごした時間は、命を肌で感じ、生き物の不思議さに興

味をもったり、愛おしんだり思いやったりする気持ちの芽を子どもたちの心の中に育ててくれました。そして何より、飼育ケースの周りで一緒に観察した友達のことをより深く知ったり友達の知識や行動に感心したり、友達のことを好きになり身近に感じる機会になりました。トカゲさんカナヘビさん、ありがとう。(中原)

## 自分たちで遊びを進めていよ！（星組）

5月末から始まった保育参観。子どもたちは「お母さんはいつ来るの?」「明日は誰が来るの?」と保護者の方が参観に来てくれるのを楽しみにしていました。コロナウイルス感染拡大防止対策として、「お家の人と一緒に遊びたいと思うけど、今回はみんなの遊びを見てもらおうよ。」と事前に話していました。当日は、保護者の方が保育室に入ってきて、嬉しそうな表情をするものの、普段通り遊ぶ姿がありました。図鑑を見ながら自分たちで車を作ったり、何度も繰り返し転がしながらピタゴラススイッチの道を作ったり、交替しながら長縄をしたりするなど、まるで「自分たちでできるからね。」と自信たっぷりの姿を見てほしいかのような様子でした。保護者の方々からも「以前の保育参観では、一緒に遊ぼうと誘われたり、見ててと言われていたりすることも多かったのですが、今日は友達と一緒にかかわりながら遊ぶ姿がありました。」「自分たちで縄を回したり、順番に跳んだりしていました。」などご感想をいただき、お子さんの成長を実際に見て感じていただけたことに嬉しく思いました。



保育参観後のミーティングで話題になったことですが、年長になると、友達と一緒に遊びたい気持ちがさらに高まり、自分から友達にかかわろうとすることが多くなるように思います。また、自分たちで遊びを進めていく分、思いが衝突し、思い通りにいかないことが多々あります。車の立体駐車場を作る中でも、思いのぶつかり合いがいくつかありました。駐車場の真ん中に防犯カメラをつけたいAくんと、防犯カメラはつけたくないと言うCくん。初めはどうしても譲れない様子のBくんでしたが、Aくんの作った立派な防犯カメラを見て、端っこにつけるのならいいよと最終的には受け入れてくれました。その後も、お互いに思いを伝え合いながらも、様々な葛藤もある中で、少しずつ折り合いをつけながら日に日に大きな立体駐車場になっていきました。

最近では、子どもたちが言い合いになっている様子を見て、「〇〇した方がいいんじゃない?」「これはみんなのものだから、みんなでしたらいいよ。」などと間に入って声をかける子どもも増えてきたように思います。言い合いになってしまっても、自分たちで話し合って解決へ向かえるようになっていくといいなと思います。また、いろいろな考えや思いの友達がいるからこそ、思い浮かばなかったアイデアや発見があり、そのおかげでさらに楽しくなったなと充実感や達成感が味わえるように、今後も保育者と保護者と共に支えていけたらと思います。(松村佳)